

第4学年 体育科学習指導案

令和3年10月21日(木) 第5校時

男子8名 女子12名 計20名

活動場所 体育館

指導者 武田 北斗

1. 単元名 ゴール型ゲーム(ポートボール)

2. 単元について

○教材観

中学年のゴール型ゲームは、主として規則を工夫したり作戦を選んだり、集団対集団で友達と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びに触れることができる運動である。低学年のゲームの学習を踏まえ、中学年では、ゲームの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができるようにし、高学年のボール運動の学習につなげていくことが求められる。また、運動を楽しく行うために、自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、規則を守り誰とでも仲良く運動したり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることなどをできるようにすることが大切である。

○児童観

本学級は、9月実施の下記診断的評価結果(抜粋)のとおり、運動に関心を持ち、体を動かす事が楽しいと感じている児童が多く、休み時間には運動場でドッジボール等をして遊ぶ姿も多く見られる。体育の授業においても、男女ともに意欲的に活動し、様々な運動に前向きにチャレンジしている姿が見られる。しかし、ボール運動においては、下記診断的評価結果にもあるようにボール運動自体は好きだが、その一方でボールを投げたり取ったりすることに苦手意識を感じている児童が多いことが分かる。また、ボール運動の経験値の差によって、調子よく動ける児童とそうでない児童の2極化や、勝つことにこだわりすぎるがために自己中心的に活動してしまったりする児童が数名見られる。そこで、4年生では、これまでの学習経験をもとにしながら、基本的なボール操作の習得に向けて、自己の課題を見付け、その解決に向けて自己決定し友達とともに夢中になって楽しく取り組む学習を通して3つの資質・能力の育成を目指していきたいと考える。それに加えて、友達に対して良い声かけをしている児童を見かけた時には、絶えず評価していくことで、協働的に学ぶ姿を目指していきたい。

質問紙項目(抜粋)	肯定的評価の割合
1. 体を動かす事が好き	100%
2. 体育の授業が楽しい	100%
3. 運動が今よりもできるようになりたい	100%
4. ボールを使う運動は好き	90%
5. ボールを投げたり、取ったりする運動は得意	55%
6. 3年生では、友達と仲良く協力して活動していた	95%
7. 3年生では、友達の良い動きを見付けたり、認めたりしていた	95%

表：当学級における診断的評価結果(9月実施)

○指導観

単元の指導にあたっては、ゴール型ゲームは中学年で14時間を設定し3つの指導目標の達成を目指す。4年生では7時間の単元構成で行い、単元前半では、児童の実態を把握したうえで、ポートボールに必要なパスやシュートなどの基本的な動きを身に付ける。単元後半は、グループでの協働的な学びを通して自己やグループの課題となる動きの上達を目指す。単元を通して、授業の導入時には慣れの運動を行い、ボール運動の基礎的な動きや運動感覚を育成する。4年生では、課題解決的な学習方法に戸惑う児童もいることから、学習の行い方も確認しながら、児童の主体的な活動を促していく。また、活動中の児童の姿や言動等から、体育の見方・考え方の気付きにつながる問いかけを行うことで、4年生としての見方・考え方を膨らませていきたいと考える。

本時の授業は6時間目である。指導にあたっては、5時間目までの学習を想起させながら、自己やチームの課題を見付け、たくさん得点するための作戦を立てることで、チームや自己の成長が感じられる学習へとつなげていきたい。そのために、まず、動きのイメージが持てるようチームごとにホワイトボードを用意し、作戦を立てる際の手助けとしたい。場合によっては、複数の作戦を板書に提示し、作戦を決める際の手立てとしたい。チームは教師側で、大体同じくらいの力になるように分けていくが、伝え合う活動が停滞する場合等が生じた場合には調整することも考える。学級全体で、お互いの動きに着目して、チーム関係なくアドバイスや評価をし合い、認め合える雰囲気づくりを大切にしていきたい。また、「する・みる・支える・知る」という多様な関わりと関連付けながら楽しく運動する授業を目指すことで本時の目標に迫る、授業の振り返りには、自己評価カードを活用して本時の活動で上手くできたことと次の目標を児童なりに明確にさせたいと考える。

3. 単元の目標

- (1) ボール運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームができるようになる。
(知識及び技能)
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) ボール運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。
(学びに向かう力、人間性等)

4. 単元の評価規準 (学習活動に即した評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ポートボールの行い方を理解している。	①規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりしている。	①ポートボールに進んで取り組みようとしている。
②基本的なボール操作（パス、シュート）を身に付けている。	②課題解決のために考えたことを友達に伝えている。	②規則を守り、誰とでも仲よく運動しようとしている。
③ボールを持たない時の動き（空いている場所に素早く動く）を身に付けている。		③試合や、試合の準備、片付けで、自分の役割を果たそうとしている。
		④友達の考えを認めようとしている。
		⑤場や用具の安全に気を付けようとしている。

5. 指導と評価の計画（第4学年：7時間扱い）

※別紙参照

6. 本時の展開（6／7時間）

(1) 本時の目標

- ・基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームができるようにする。

(知識及び技能)

- ・ **自分のチームに合った作戦を選び、考えたことを友達に伝えることができるようにする。**
(思考力、判断力、表現力等)

- ・ ボール運動に進んで取り組み、安全に気を付け、きまりを守って友達と仲良く運動したり、お互いの考えを認め合ったりしながら活動できるようにする。

(学びに向かう力、人間等)

※本時では、(思考力、判断力、表現力)を主として評価する。

(2) 本時で「どの子ども運動の楽しさや喜びを味わう」ための教師の手立て

すべての児童が本時のめあてに向かう活動を通してボール運動の楽しさや喜びを味わうために、「作戦の掲示」「他者（友達や教師）からの助言・声かけ」の2点を重視する。1点目は本時で行う試合の前にチームで作戦を立てる際、話し合いが行き詰った時のために、いくつかの作戦を用意して掲示しておくことで、その作戦をもとに自分たちのチームの作戦を決め、より思考や話し合いが進むようになることを期待したい。2点目は、1試合目と2試合目の間に友達の動きやチームの動きについて伝え合う活動を仕組むことで、児童の学びを深め、2試合目が1試合目よりも上手くできたと実感できることを期待したい。また、試合を見ている友達や教師で、空いている場所があれば声かけをし、いいプレーをした際には評価を入れていくことで、勝つためにチームで動くことの楽しさや、得点が入った時の喜びを味わうことを目指す。

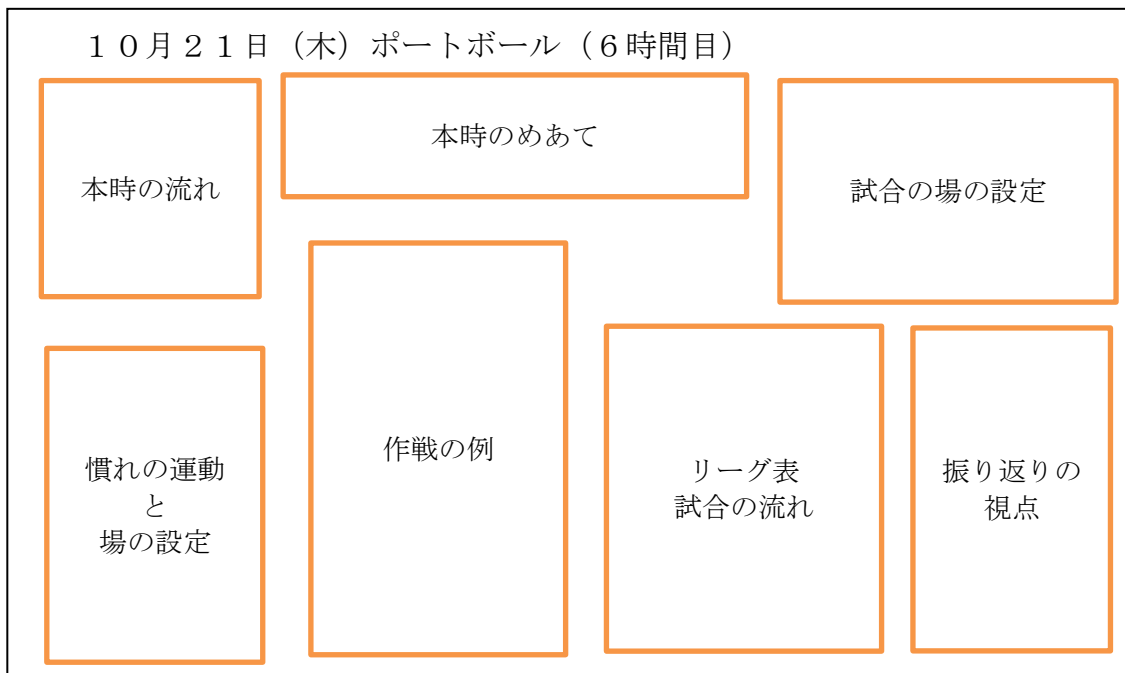
(3) 準備物

ボール、ポートボール台、得点板、ゼッケン、掲示物（作戦の紹介）、自己評価カード、ホワイトボード、ペン

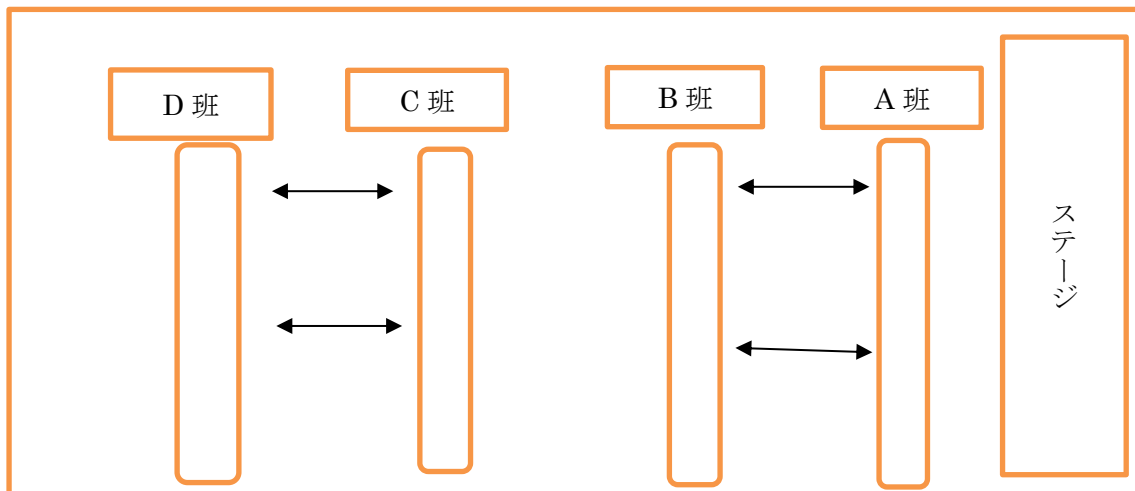
(4) 本時の展開

	本時のめあて・学習活動	○教師の働きかけ ☆評価（評価方法） ●運動の楽しさや喜びを味わうための教師の働きかけ
導入	1. 挨拶の後、準備運動をする。 2. 場づくりの後、慣れの運動を行う。 ・パス・シュート 3. 本時の流れとめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">自分達のチームに合った作戦を選んで、試合をしよう。</div>	○本時で特に使用する部位を入念に行う。 ○慣れの運動を行う間、巡視しながら児童に動きの助言を行う。 ○本時の流れやめあてを黒板に提示することで、学習の見通しが持てるようにする。 ●本時の試合のイメージがつくように、前時までの児童の意見をもとにつくった作戦例をいくつか提示する。
展開	4. チームごとに分かれて作戦を確認する。 5. 選んだ作戦を使いながら試合を行う。 (1) 1試合目を行う。 ・見ているチームは声かけを行う。 (2) 1度集合し、チームの作戦は実行できたかを振り返る。 (3) もう1度試合を行う。 6. 本時のまとめとして、試合の成果を各グループで話し合う。	○それぞれの作戦が視覚的に分かるように、ホワイトボードを用意する。 ○それぞれのチームのいいプレーや動きはその場で評価し、気付きを促すような声かけも意識して行うようにする。また、試合を待機している児童にも、声かけを行うよう指示する。 ☆自分のチームに合った作戦を選び、考えたことを友達に伝えている。 (観察) ●苦手な児童に対しては、その子のチームでの役割を把握しておき、教師が言葉がけをすることで補助していく。 ●それぞれのチームの協力している所を評価し、子供の活動意欲につなげるようにする。
まとめ	7. 学習を振り返る。 ・発表 8. 片付けの後、挨拶をして終了する。	●児童が記述する際には、振り返りの視点をワークシートに示し、手掛かりとできるようにする。 ○みんなで協力し、片づけることを助言する。

(5) 板書計画



(6) 場の設定① (慣れの運動)



場の設定② (試合)

